

# 高知大学岡村教授による 防災講演会開催



高知大学理学部  
岡村 眞 教授

1月21日すこやかセンター  
伊野で、また24日に吾北中央  
公民館で、高知大学理学部岡  
村眞教授をお招きして、防災  
講演会を開催しました。

岡村教授は、地震地質学、  
長期地震予測研究を専門分野  
としており、内閣府中央防災  
会議「東北地方太平洋沖地震  
を教訓とした地震・津波対策  
に関する専門調査会」委員、  
内閣府「南海トラフの巨大地  
震モデル検討会」委員など、  
多くの外部委員を兼任されて  
います。

また県内各地での講演会や  
地域の防災教育にも精力的に  
取り組まれています。

講演会では、東日本大震災  
の調査報告や、南海地震の被  
害予測として、平野部の多い  
伊野地区での津波の河川遡上

や液状化、また山間部の吾  
北本川地区での山津波など、  
各地域に応じた説明がありま  
した。



1月21日 すこやかセンター伊野

## 講演会概要

来るべき南海地震について  
〜今できること〜

南海地震の震源域は従来、  
伊野地区の一部が入っていた  
だけでしたが、昨年12月20日  
内閣府検討会報告で、瀬戸内  
側、四国全域まで広がった。  
震源域の西側については、足  
摺から日向灘、鹿児島まで延  
びました。これは、私の高知

大学の仕事で、津波堆積物か  
ら10mを超す津波が30年に1  
回起こっていることが分かっ  
たため広がりました。

結果、震源域の面積は従来

の2倍、地震エネルギーは、  
従来の中央防災会議モデルM  
(マグニチュード) 8.6の約3  
倍となりました。

この町は想定震源域のど真  
ん中となります。従来は1分  
半の揺れでしたが1分延びて  
2分半となりました。

また、この町については、  
阪神大震災並みの揺れが襲い  
かかると、津波がどうなるかと  
いうところですが、今までは  
津波について考える必要はな  
かった。

東日本大震災での、北上川  
では形状は違うが、津波が65  
km遡った。65km遡ったと言っ  
ても堤防の内側を遡ったので  
すが、河口から10kmぐらいの  
ところでは、堤防を乗り越え  
た津波が町や鉄道を破壊して  
いる。こんなことは従来想定  
していなかった。

そして、ここに何があった  
か。大川小学校です。78名の  
生徒と教員が亡くなった。海  
岸から4km離れていて海が見  
えない。標高が3m。この町  
の市街地の場合、標高が13m  
から14mなので、ここまでの  
被害はないと思うが、堤防が  
決壊した場合、津波が流入し

てくる恐れはある。

仁淀川では最悪の場合、河  
口から15kmから20km、川を遡  
上し、鹿敷地区まで達する恐  
れがあります。

津波から助かった3000  
人の調査を国は、今やってい  
ますが、終わるまでしつかり  
調査をやっていたかどうか  
願っています。これがき  
ちつとしないと西南日本の対  
策がいい加減になってしまう。

東日本の場合、津波から逃  
げる4つのチャンスがあつ  
た。津波が来るまで最短で25  
分、最長でも70分ありました。  
まず、最初の長い揺れでこ  
れは尋常ではないと57%の人  
が逃げ、全員が助かった。2  
万人近い人が亡くなったと、  
悲観的なとらえ方もあるが、  
35万人が逃げたという良い面  
も見なくてはいけない。

2番目は、海岸にいた人に  
しか当てはまりませんが、漁  
業関係者が、海が引いてきた  
時点で逃げました。

3番目に、沖から白いも  
の、つまり津波が来るのが見  
えて逃げた人。防潮堤があつ  
たところでは見えなかった。  
逆に防潮堤のないところでは

最初の揺れでほとんどが避難  
していた。ハード面に頼りす  
ぎてはいけない。

そして、家や構造物が壊れ  
る津波が押し寄せる音で逃げ  
た人。切迫避難です。その前  
に逃げてください。この町で  
は皆さんできるはずです。

昭和南海地震ではプラスの  
面もあるしマイナス面もあ  
る。高知の沿岸部でお話をし  
ていて、経験からここまで津  
波は来ないと思っている。昭  
和は一番小さかったんです。

被災地では、人口構成とし  
て60歳以上の方が25%です  
が、亡くなった方の52%が60  
歳以上。これは足が悪いから  
逃げ遅れたということではな  
く、金曜日の午後、家にいる  
率が高いこともありです。

しかし経験から逃げないと  
決めた人が逃げなかった。そ  
ういった方を避難させるのに  
は、日ごろからの地域の信頼  
関係、信用している人からの  
声掛けというものが非常にな  
ります。

現地では3mの道路を隔て  
て、日常と被災地に分かれて  
いた。何が違うのか。「高さ」  
だけなんです。